

# くらし

## 健康・医療

### こぼれ

#### 青春

一仕事終え、うつらうつらしている  
と突然、広島市内に住む高校生の孫か  
ら電話が入った。「今から自転車で泊  
まりに行くから」。友達3人も一緒だ  
という。

慌てふためくとは、このことか。事  
故に十分気をつけるように言い、早速、  
客を迎える準備にかかった。

汗と雷雨に打たれたのか、夕方、全  
身ずぶぬれの4人の明るい笑顔が玄関  
に並んだ。急な上り坂でも一気にこい  
できたと元気よく話す。

夕食はスタミナ料理に決めていた。  
「田舎の飯はおいしい」。大きな茶わ

広島県山県郡

主婦 斉藤 峰子 68歳

んが交互に動く。満腹になったら、夕  
涼みを兼ねてホテルの乱舞を見に行く  
ように勧めた。4人は夜通し、笑顔で  
楽しそうに話し込んでいた。

次の日は清流で泳いだり、魚捕りを  
したり。大きなオヤニラミをつり上げ  
た時は、全員大歓声を上げたとか。主  
人が話してくれた。釣った魚は、わが  
家の池に放してやった。

長い人生の中で、キラリと光る青春  
時代は短い。彼らは今、そのまっただ  
中にいるようだ。さっそうとペダルを  
踏んで帰って行った。

その後ろ姿を追いながら、リュック  
サックに弁当を詰め、峠を越えて友達  
の家に、やっとなどり着いた日が懐か  
しく思い出された。今の彼らと同じ17  
歳の夏だった。